

2020年12月

第162回 中小企業景況調査報告書 (2020年10-12月期) (製造業編)

※DIとは…

「好転」と回答した企業の割合－「悪化」と回答した企業の割合。DI値がマイナスの場合は、悪化したと回答した企業の数が多いことを示す。

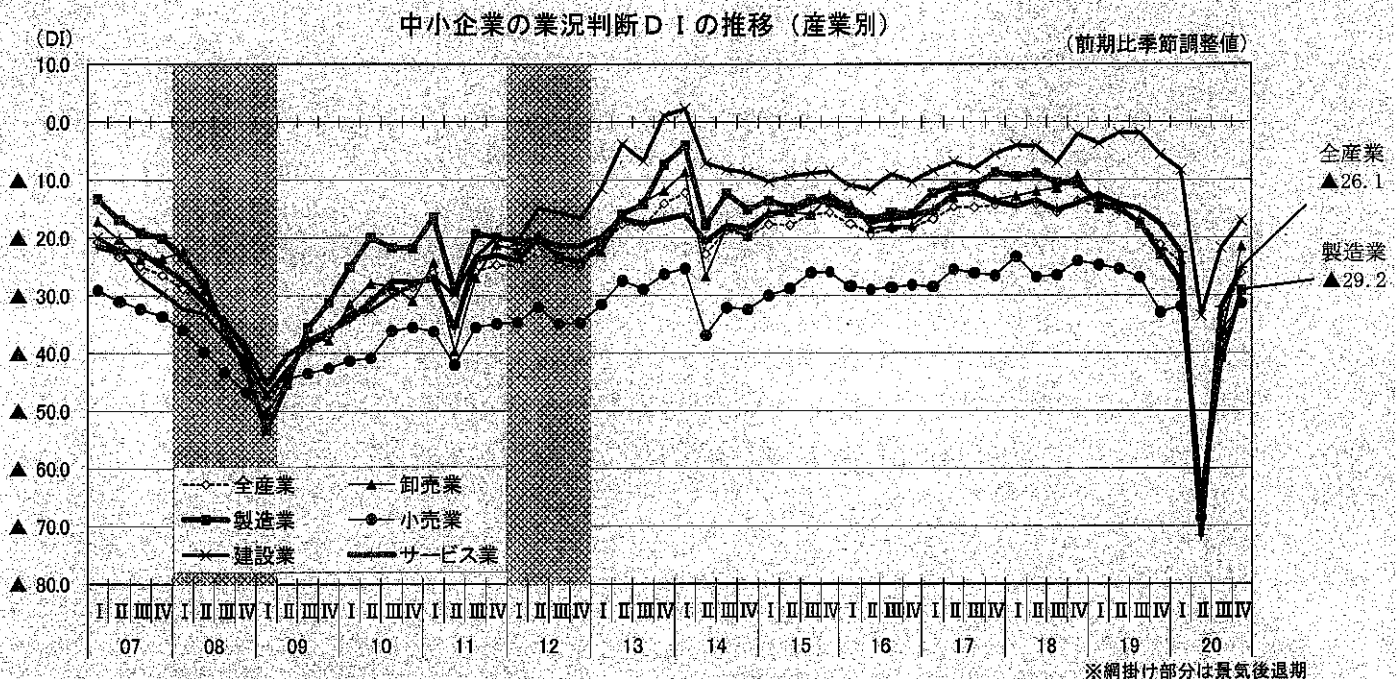
中小企業基盤整備機構 企画部 調査課

〒105-8453 東京都港区虎ノ門3-5-1

TEL: 03-5470-1521(ダイヤルイン)

URL: https://www.smrj.go.jp/research_case/research/survey/index.html

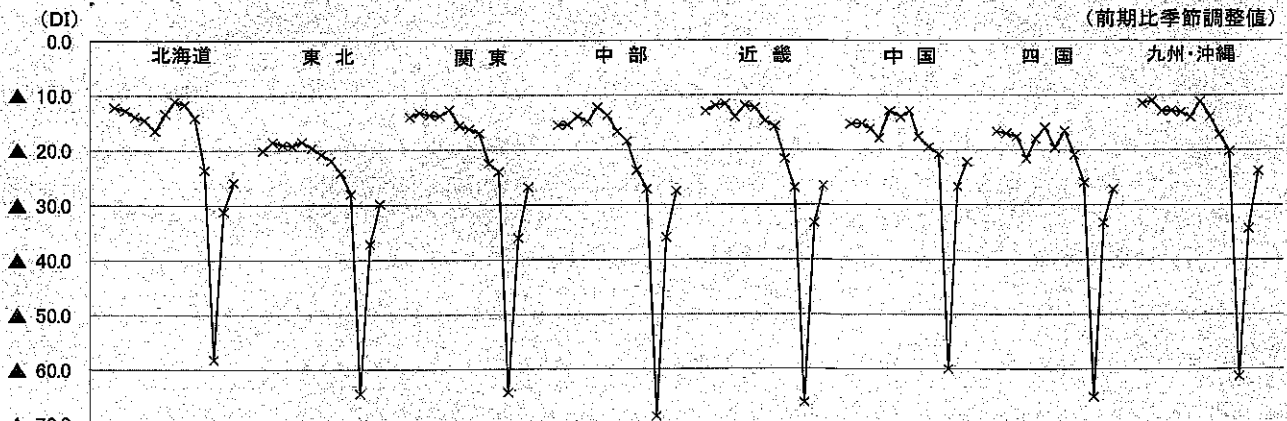
中小企業の業況判断DIは、2期連続で上昇した。
前期と比べた全産業の業況判断DIは、2期連続で上昇した。(▲34.1→▲26.1)



〈地域の業況〉

九州・沖縄、関東、中部、東北、近畿、四国、北海道、中国の全ての地域でマイナス幅が縮小した。

地域別業況判断DIの推移 (全産業) (2017年10-12月期～2020年10-12月期)



(注) 1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。

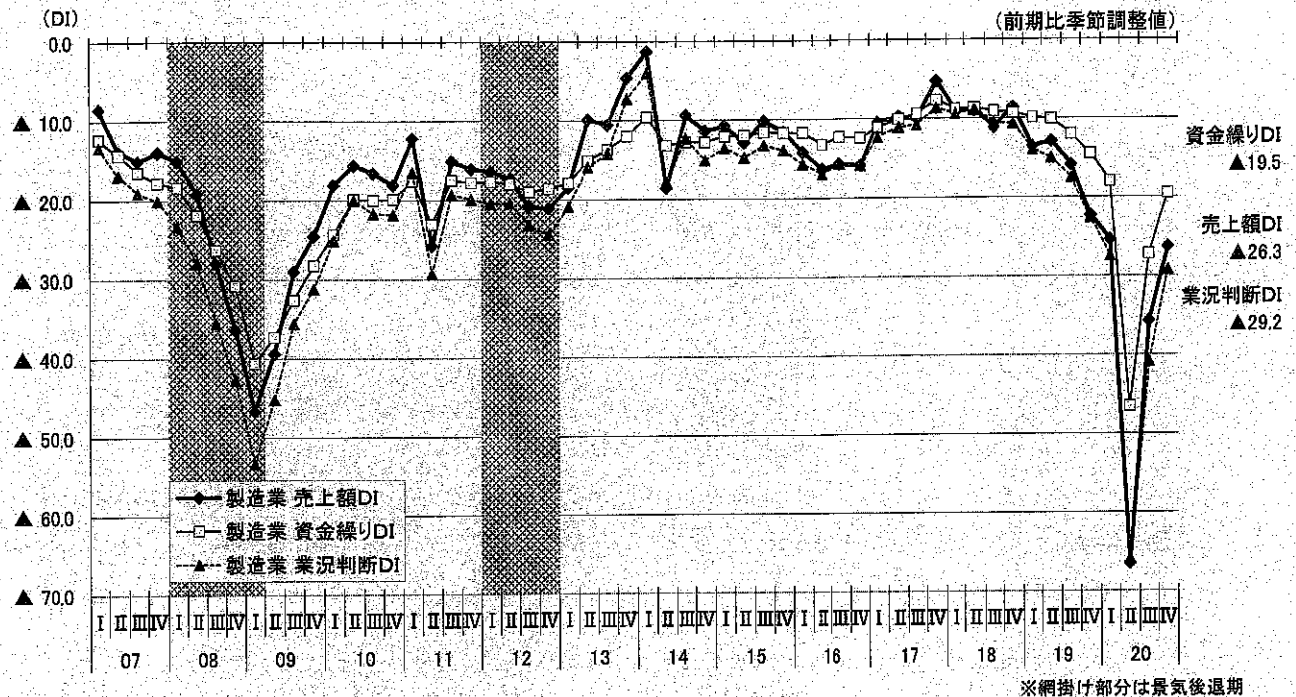
2. 関東には新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には石川、富山の各県、近畿には福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。

3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合－前期に比べて「悪化した」企業の割合

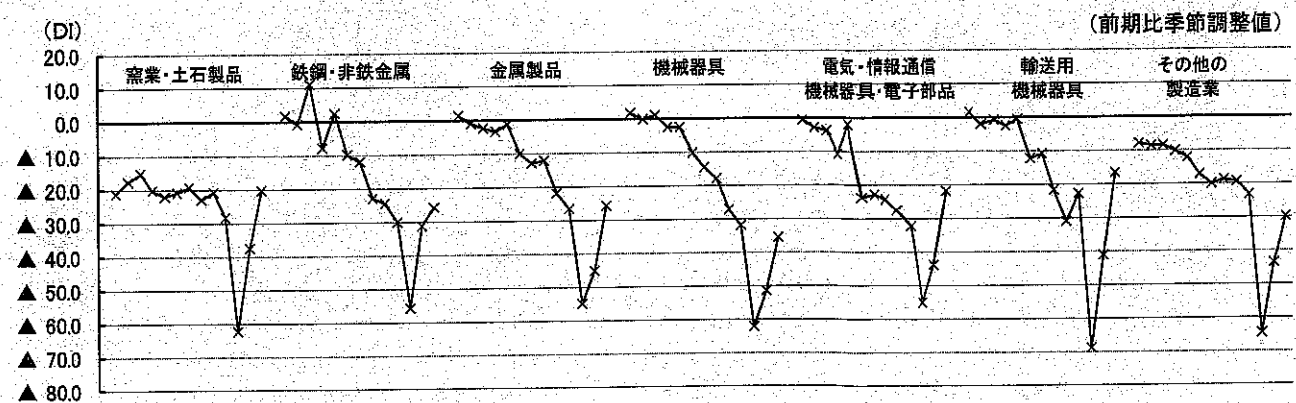
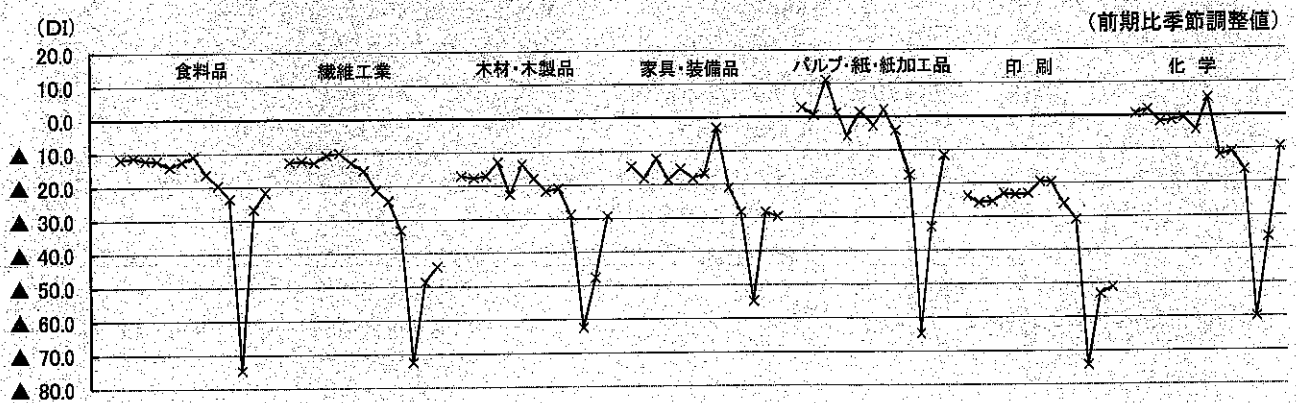
1. 製造業の動向

製造業の業況判断DIは、(前期▲40.8→) ▲29.2 (前期差11.6ポイント増)と2期連続してマイナス幅が縮小した。また、売上額DIは、▲26.3 (前期差9.4ポイント増)、資金繰りDIは、▲19.5 (前期差7.7ポイント増)といずれもマイナス幅が縮小した。

製造業の14業種の内訳では、化学で▲9.4 (前期差26.9ポイント増)、輸送用機械器具で▲16.6 (前期差24.5ポイント増)と13業種でマイナス幅が縮小した。一方、家具・装備品で▲29.6 (前期差1.3ポイント減)とマイナス幅が拡大した。



製造業 業種別 業況判断DI (2017年10-12月期~2020年10-12月期)



2. 製造業の設備投資動向

設備投資を実施した企業割合は、製造業全体で21.1%（前期差1.3ポイント増）と増加した。

（単位：％）

	食料品	繊維工業	木材・木製品	家具・装備品	パルプ・紙・紙加工品	印刷	化学	窯業・土石製品	鉄鋼・非鉄金属	金属製品	機械器具	電気・情報通信・電子部品	輸送用機械器具	その他の製造業	製造業計
2020年10-12月期	23.8	16.1	15.9	10.9	20.0	18.4	32.4	18.6	28.3	24.1	22.7	25.3	28.7	15.9	21.1
2020年7-9月期	22.8	13.6	17.5	13.7	13.5	17.7	36.2	22.1	19.2	19.6	20.2	24.2	27.2	15.8	19.8
2020年4-6月期	20.3	10.7	12.7	11.3	16.2	16.8	25.4	17.9	28.0	20.8	18.1	20.2	29.5	9.8	17.8
2020年1-3月期	19.8	12.6	13.0	10.7	17.3	19.4	31.4	22.9	21.7	20.4	21.6	18.2	31.9	15.4	19.2
2019年10-12月期	26.0	15.7	15.3	11.6	17.5	20.2	32.4	19.6	32.0	29.5	25.9	28.3	30.6	20.1	23.3

3. 製造業の経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点としては、前回同様「需要の停滞」が1位にあげられており、「生産設備の不足・老朽化」が2位、「製品ニーズの変化への対応」が3位となった。

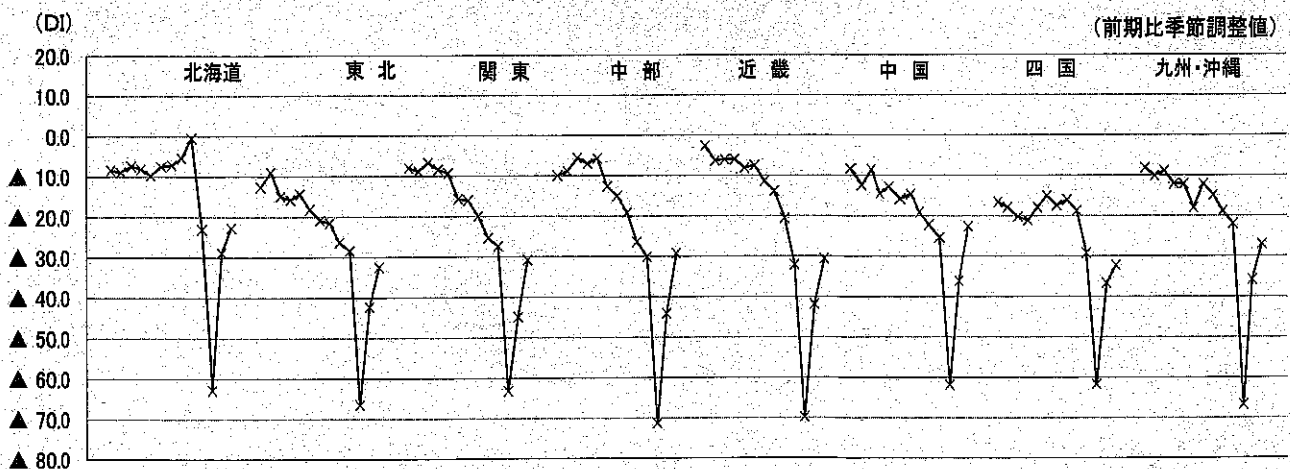
（1位にあげた企業の割合）

	1位	2位	3位	4位	5位
今期 (10-12月期)	需要の停滞 (43.8%)	生産設備の不足・老朽化 (9.3%)	製品ニーズの変化への対応 (8.5%)	従業員の確保難 (5.3%)	製品(加工)単価の低下・上昇難 (5.2%)
前期 (7-9月期)	需要の停滞 (47.5%)	生産設備の不足・老朽化 (7.7%)	製品ニーズの変化への対応 (7.4%)	従業員の確保難 (4.8%)	製品(加工)単価の低下・上昇難 (4.7%)

4. 製造業の地域別業況判断DI

地域別に見ると、中部、関東、中国、近畿、東北、九州・沖縄、北海道、四国の全ての地域でマイナス幅が縮小した。

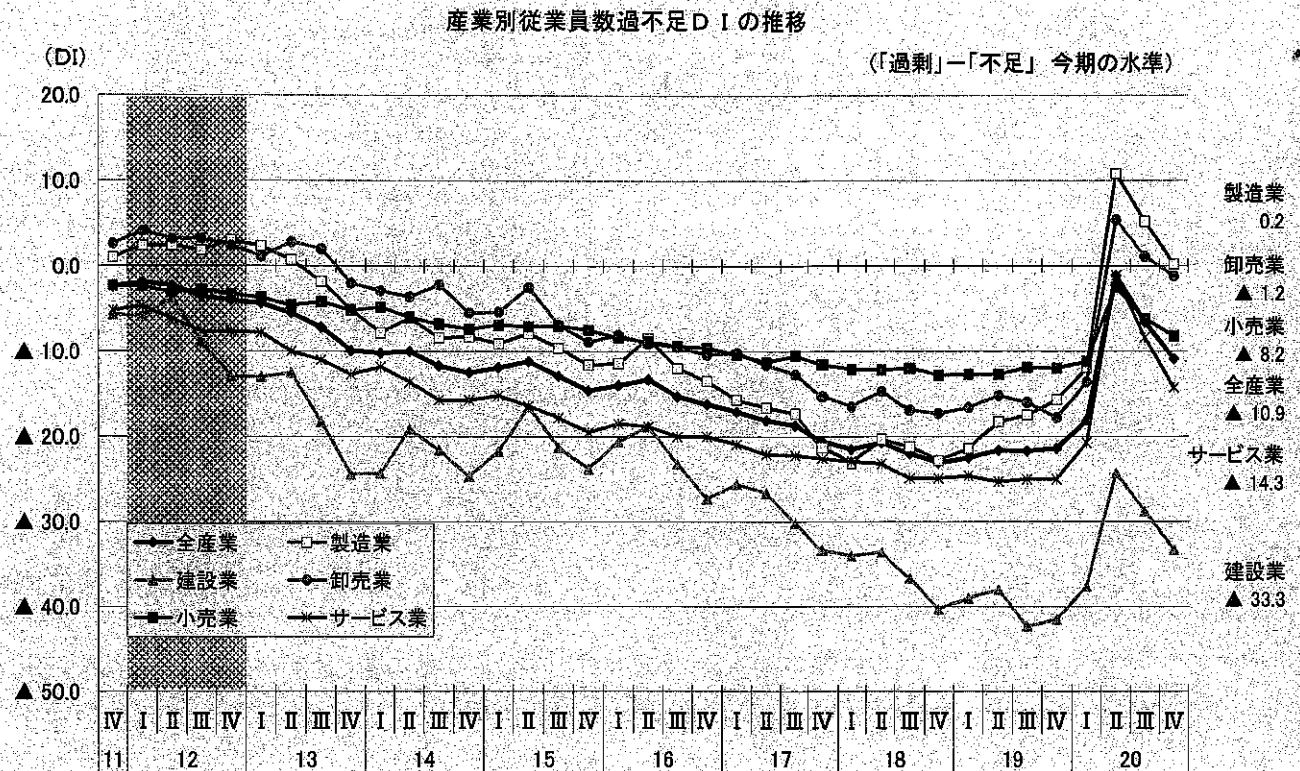
中小企業の地域別業況判断DIの推移
製造業
(2017年10-12月期～2020年10-12月期の動き)



- (注) 1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。
2. 関東には新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には石川、富山の各県、近畿には福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。
3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合-前期に比べて「悪化した」企業の割合

5. 製造業の従業員数過不足D I（今期の水準）の推移について

従業員数過不足D I（「過剰」－「不足」、今期の水準）は、（前期5.2→）0.2（前期差5.0ポイント減）と2期連続して過剰感が弱まった。



【調査対象企業のコメント】

- ・ 11月上旬の新型コロナウイルスの道内新規感染者数が100人を超えた時点で急激に来客が減った。各催事も中止の上、雪積期でもある。春までは売上げ増は見込めないだろうと思う。（食料品 道南・道央）
- ・ GoToトラベル事業により銀山への観光客数が徐々に増加し、それに伴い来店客数も増えてきた。しかし、海外客の方が客単価が高い傾向にあるため、売上としては昨年よりも減少している。（木材・木製品 山形）
- ・ 自動車部品10月以降、対前年比プラス傾向。半導体関連も回復受注増。但し、2021年以降不透明感があり、新しい顧客、開発により中長期の売上確保、拡大が必要。又、既存顧客の対応が重要。但し、見直しも含め新型コロナウイルス後への変化。（輸送用機械器具 千葉）
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大による業界全体の需要の縮小現象や、取引先の廃業等も見られる。又、設備投資を実行したものの新型コロナウイルス影響で全面稼働には至っていない。（繊維工業 石川）
- ・ ホームセンター、ドラッグストア、通信販売等から外れた商品の落ち込みは大きく、回復の見込み無し。プロ用（飲食・ホテル）商品は50%近い落ち込み。そろそろ持ち直してくるかなと思う。（その他の製造業 和歌山）
- ・ コロナ禍で営業活動は思うようにできず、東京で開催される展示会への出展は中止とし、販路開拓には厳しい状況です。「新しい生活様式」に伴い、教育関連の建築設備投資は当面減少傾向で今後の自社の業況に影響すると思われます。（家具・装備品 岡山）
- ・ メインである建設用車両メーカーの引合いが低下し、かなり苦しい業況である。新規案件を回っている最中であるが、長期戦であることは明確である。（金属製品 香川）
- ・ 印刷需要は、取引先の状況がまだまだ回復状態に至らず、イベント事業などが本格実施とならないため、当初予測よりまた1、2ヶ月延びて2月位迄は厳しさが続きそう。反面、web事業の強化で需要が大幅に増加している。（印刷 佐賀）

【調査要領】

- (1) 調査時点：2020年11月15日時点
- (2) 調査方法：原則として、全国の商工会、商工会議所の経営指導員及び中小企業団体中央会の情報連絡員が訪問面接し、聴き取りによって行った。
- (3) 回収状況：中小企業基本法に定義する全国の中小企業で、調査対象数18,912のうち有効回答数18,231（有効回答率96.4%）（産業別の動向は、製造業の有効回答数4,471を集計したもの。）